

## 第1回富山県防災会議 議事要旨

### 1 日時

平成23年6月9日(木) 15:00~16:30

### 2 場所

ANAクラウンプラザホテル富山3階鳳の間

### 3 出席者

49名(委員名簿別紙のとおり)

### 4 配布資料

資料1 東日本大震災に係る県の対応について

資料2 呉羽山断層帯被害想定調査の調査結果の概要について

資料3 富山県地域防災計画(震災編)の見直しについて

資料4 富山県地域防災計画(事故災害編 原子力災害対策)の見直しについて

資料5 地震対策部会、原子力災害対策部会の委員について

### 5 議事概要

- ・会長(知事)の挨拶に続き、資料1~5について、事務局から説明後、北陸電力からの原子力発電所に関する説明
- ・地震対策部会、原子力災害対策部会の委員についての説明
- ・各委員から富山県地域防計画の見直しにあたり、提言を発言

#### 【各委員からの発言要旨】

- ・防災教育が非常に大切である。
- ・避難のための訓練が必要である。
- ・防災というと全部防ぐことのようにあるが、むしろ「減災」という考え方で取り組む必要がある。
- ・防災教育の実施にあたっては、防災組織と連携して取り組み、頭だけではなく体で覚えるということを平生からやっておく必要がある。
- ・歯科医師の仕事は、何かあれば、身元確認をすることが、一番の仕事。警察や海上保安庁と協力して取り組みたい。
- ・先日、第2回の配分委員会が開催され、日赤が預かっている義援金を一刻も早くお届けできるように配分案が検討され、決定した。
- ・公立のほか、私立の保育所や幼稚園についても建物の耐震化を行う必要がある。

- ・東日本大震災の被災地において、富山県の医療班は日替わりや派遣隊ごとに交代するのではなく、特定の避難所に継続して担当した。このことにより、コミュニケーションも取れたし、大きな安心も得られた。
- ・避難所には災害弱者である高齢の方や障害を持った方、小さい赤ちゃんなどがたくさんいたが、健康面やいろいろな生活の支援が必要であった。
- ・医療の専門職が避難所に常駐していると大変な安心が得られる。実際、避難所に保健師がいるだけで安心され、とても効果があった。
- ・医師会では、JMAT を被災地に派遣してきたが、今回のような広域の災害では、派遣先の問題や、何か事故が起きたときの問題が、課題であると考えている。
- ・富山でも、耐震化は進んでいるが、津波までは想定していない。今後、いろいろな想定が出てくる中で、その想定に合った形で津波に対しても道路、特に幹線道路を確保することが重要である。
- ・とにかく逃げるという意識を持つような防災教育が必要である。
- ・防災訓練が行われているが、かなり形式化している。これまでやってきた防災訓練を見直していくことが必要である。
- ・防災計画を検討していく中で、それぞれの人たちが自分の身を守ることを身に付けるための方策を検討してほしい。